

さる五日の志摩部主事会は、『三書の民責による民書のための総会』として
ハレフ子母赤團に終つた。

教主校のどう、スランカト幹。三、三十名を突破したと豪語する要求署名（出席者は約半数）、アス文で附ちて改進集会中止声明、数々の無内容な、ミクラス決議、ありとあらゆる環出と粉砕をこなし、一四四生を中心、総会に恋こがれた善良な学生を集めて総会が行なわれることした。予定どおりに行けば、太學当局の同盟軍として民校を与えられ、教員の特权が得られるはずであつた。しかしながら、彼ら民責は、セクト主義的、杆閥代行主義的、代行民主主義的、また、まことに政君主義的、自らの正体を露したのである。

松連の呼びかけた大學立法実体化粉砕工起集会に百名余りの学友が参加し、彼らの総会を論理的に粉砕しようと工学部は教室に隊列を組んで出かけた。松連は信頼も裏力も便れぬ、しかし衆的に所らかにしたにもかかわらず、彼ら民責は信頼も裏力も裏られて来るなどとテマゴーを流し、我々も裏力排除とのことで、裏力粉砕をやって来るなどとテマゴーを流し、我々も裏力排除とのことで、裏力民責が何と言ふとも、松連は都学委、百名余りの学友を政治的である。彼民責が何と言ふとも、松連は都学委、百名余りの学友を政治的である。意図でもってロッケアットしたのは明白な事實ではないか。松連は彼ら民責のセクト主義的、政君主義的アダガエ総參を断固封錠する！

今、当局は斗争学友の大體九分を企てる中で更に右翼再興を押し進めている。複数の校刀集団が、中で教授会は單なる後援認成団と化し、そのより、草薙内部にはうみつて民責を宣傳し、派説者を宣傳として自らの陣営を固め、まさに立派の異化化を促進している。五千以上の医学部斗争の過程を見ると、一貫して左翼は堅行第一主義者當局との対立を重視するのは当然のことなのである。

各クラス、ゼミにストライキを行なはれて、再度キラ隊列を固めよ。斗丸の書類本の再発行をめぐらし、オカル自若云の再発は語れないのであろう。

機動隊、崇駆体制粉砕ト。

学長抗議会回交貫徹ト。

大學立法実体化粉砕ト。

一一月佐藤訪米阻止ト。

スマ安保粉砕ト。

あせる民請、百余名の学友を実力排除！ 一学友の追求の前に敗走！

直じ 工学部玄関まえ

全ての学友は「団交要集会」に結集せよ！

▽志摩部ストライキ実行シトム